



渭江集五

乃之坊撰

5
1289
4





諸国發句 一人一唱

武蔵之部

江戸

薄くを川つさ川くや萩の高 麦河

本沼織る糸に楳のしふふ糸 十午

たの目と又一をれや 蝶のまね 老梅

まゝるや竹の好らるや羽もまゝ 毘堂

血のまらやまの町くまらるる 柳條

柳條

為さるに任か〜〜〜〜〜 暮牛

初年や〜〜〜〜〜 古道

白雲やおも〜〜〜〜〜 子林

梅に吐きや出葉か〜〜〜〜 水宿

雲の舌も〜〜〜〜〜 秋調

風に骨も〜〜〜〜〜 松封

鶉〜〜〜〜〜 横琴

山吹〜〜〜〜〜 楓江

乃多と〜〜〜〜〜 谷水

為〜〜〜〜〜 晴書

黄も〜〜〜〜〜 帆葉

畏の〜〜〜〜〜 盆枝

為〜〜〜〜〜 敲氷

〜〜〜〜〜 抱書

〜〜〜〜〜 西奴

書板〜〜〜〜〜 踏書

四ノ下

二

土守の傍に 樹よや木下 園 石松
 松ありて 目と 体もあやみよ 竹外
 蓮のいさゝか 石や 沼の 首 弄を
もつちるな次
 んとく ぬのこけり 柳 糸 破傘
 めく 瓜や まねおちをて 十こお 花火
サ
 子鹿や めもを んとく ねのこ 野添
 かみくね 膚よ まるく けく 溜水
 畏る 会や ねのつと かくれ 文庫

舟のいさゝか 中 揉柔れ ちよひ 双羅
 山里や 氷と 飯れ ちよ 菅田
 川あり 里も ちよれ ちよ 文林
 鳥歌や 木魚の ちよ 頃 一巻 ちよ 菅田 芋田
 柳を 今 ちよ 神も ちよ 後の 月 巴陵
 ちよ ちよ ちよ ちよ 田 極 江 泗江
 ちよの ちよ ちよ ちよ ちよの ちよ ちよ 乙綱
 風の ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 茶溪

茶溪

ふさふさのふさふさや 沖の月 周賀
 あゝ海やありの月 此片の時 評
 鶴の意ふらふくや 新の抄 可破

田田連中

中頃の過りもさか 遠れ月 隆羽
 初々ふれよとあれ 柳 松雨
 日ごとく ちやの 呉竹
 早蕨のちや 柳 竹馬

夕浪に過るもあや 村り 里曉
 うねりもさか 柳 長草
 暮角よ夕日のとあれ 柳 沙流
 橋のふれ方とあれ 柳 橋下
 ありとあれ 柳 柳里
 陽をやり深し 柳 玄芝
 編りもさか 柳 遊舎
 あの手もあれ 柳 柳舎

ぬれよとてしるれもや辛抱ひ 芝園
 錦の襦やいも笑も高の玉 竜校
 中ねいよ御おてさうそくまき花 朶松
 手解て甲約の半もぬりきり 豊水
 ちぢく人よ幸しとまらふゆい山 沼我
 鶺鴒やゆづ 総金銀 ちりり 偏春向
 美のくくみとかりて 権系 里美
 るねやちりり ぬのきり みりり 花堂

草のいよとてしるれもや辛抱ひ 芝園
 錦の襦やいも笑も高の玉 竜校
 中ねいよ御おてさうそくまき花 朶松
 手解て甲約の半もぬりきり 豊水
 ちぢく人よ幸しとまらふゆい山 沼我
 鶺鴒やゆづ 総金銀 ちりり 偏春向
 美のくくみとかりて 権系 里美
 るねやちりり ぬのきり みりり 花堂

四
 五

引神のあまのこほき 常雛 小のこ建中 百化

方ふし海を渡るもはらり 吐雨

くらしく虫をとりて置く 湖堂

かきく人ふみくらしくはらり 履編

傾城の噂もふききり 寸毛

ふくしはあまてまへり 琴丸

猿啼ふは程もみまき 涼花

あまのこやきくはらりと 子風

こほきとあまのこほき 随風

かきくはらり 梅女

かきくはらり 昔又の建中 泉抄

お松とあまのこほき 年路

蝙蝠の住むはらり 菊峰

強物と一日を過ごす 遊亭

竹林の連やあまのこほき 薪巻

あまのこほき 似山

山嶺の汗もよほれぬよふに 東岳
おろし牛もいふかき後の月もに 杏花
ほろろしと涙のたろや 堂上 倍巻 困水
梅の香のけちりく 神や 五のいさ を別と保 共有

尾張之部

圍入八慈もよあれて 月もに 五の倍
みくよおと捨もぬいさ 園土
蛤も 締りさし 出れ 汐下系 長柄

なご海もよあやちやくもり 傘系
姑のころちやくさあさ 杉
我吹て新よささ 柳系 泉布
川まの裾の携物や 香の玉 笠以
一徳のときささ 柳 帳系 流系
ささぬよあやちやく 梅の月おに 阿保
堂にさこれ 徳さしや 山れ 若 笠以 三系
さのよささささ ちやく ちやく 系 系 系

山嶺

一徹の時やうねりしるる
梅のよと水の志やうねりしるる
初やぬの即れかきうねり
しるるねねりしるる
梅のよれきうねりしるる
行きやうねりしるる
長照しるる
書抄のようねりしるる

若達うねりしるる
梅のよと水の志やうねりしるる
いさよひやうねりしるる
別れやうねりしるる
早よ入やうねりしるる
梅よ入やうねりしるる
七種やうねりしるる
しるるやうねりしるる

梅のよ

しるる

春のさかほつふたふたありとあらぬ松 津南連中

秋の改めぬとて清し地の 和碩

時多やも村の目たはるる 以誰

谷多のゆきよと柳 一牧

あしおほほ 女 志色

新く 城東 十河

深川のより 熱田 是田

深川のより 糠

1

若竹や睡るとは 雲々

近て 何當

川多や 方水

伴勢之部

菰野 三章

湖松堂

早 九里

あ 和歌

あ 一橋

葉名

こゆびのまゝまゝ〜一角火所 指之
 清も今も〜おちけ〜やまよき 羽鼻
 倉らの隣、山崎〜 空危 堀 八調
 係、一〜色をよ〜おゆか 妻士
 清もれい〜い〜ま〜い〜い 帆十
 村きのら〜れ〜い〜い 可多 一柳
 福書と〜い〜い〜い 月由 鳥格

せつ〜りの〜い〜い〜い 尊什
 清もや〜い〜い〜い 朝吾
 や〜い〜い〜い〜い 之由
 白君〜い〜い〜い 李林
 清〜い〜い〜い〜い 之系
 清〜い〜い〜い〜い 丑五
 一〜い〜い〜い〜い 妻冬
 牛七〜い〜い〜い〜い 宇均

100

101

九

司日部

可及
 宗次
 相水
 分竹
 和谷
 竹永
 藤秀

松浦
 玉之

とに部

江邑
 尾候
 千梅
 冠那
 波青
 岩品

牡丹咲や方ハ寸と 秋の月 大伴 千列

まやむしー 冬は新雪の小おら鶴 萬祖

踏々てとのわよ 雨よふ芥子の蝶 席父

山城之部

分ふよをいれよよいれ 大姓よ 花洛 薩守

額ハ元了や離れをを 佐 杜吾

葉のむやるさる居たり 馬の上 桂列

福つましよとちとちいれ 踊ふ 素仲

月影や舞と里一 加はる川 素月 仙行

桃咲や小家小敷の 小 葉島 山只

大和之部

そのよよるらー けふれお茶子 郡山 遊葉

まの産を産よるけきりま島 茂村

孫津之部

今の丘や嬉しくまよる 雲の月 今津 三強

燈心のりーとちとちいれ くらぬ月 南葉

空菊もあつたあり ぼれ月 とは 一滴
 ちよと入国をまね 春の玉 晩景
 雪とふくまふ梅の月おふ 葉哉

留新之部

こり月や沖も居の二とら 園山 非吹
 頼りし中よとふふ 僧 あり 東蝶
 ころのねお嵐まじり 柳 紗白
 ころや様もあつて茶れい香 阿三

こり月の流川まじり 夕中花 知全
 ちよとねて柳よのふれ小粒の 青儒
 葉のふとまじりくあり 眺目 星可
 ちよとのちひねある 美苔ふふ 一川
 金相やるのつらる 星の教 百水
 ねたておのまじり 鴉の素 岬青
 羽ら危亭のふれや 雛々 嶽 曲葉
 入月や何艘かふれ仲れ 鴉 帯雨

猪ノ ねく と ぬく 毛 ぬ くる
 志 くれ け ず ち ぶ ぶ ぶ の 山 せ け
 風 や くれ て ぬ け け 海 ぬ け
 松 ぶ ぶ ぶ の け け け け け け
 雲 ぬ け け け け け け け け
 ぬ ぬ と 雀 山 ぬ ぬ や 雲 の 梅
 木 柳 の け け け け け け け け
 ぬ ぬ ぬ ぬ や ぬ の ぬ ぬ ぬ ぬ
 松 翠

手 張 や ぬ と ぬ ぬ ぬ 夫 ぬ ぬ
 雲 ぬ ぬ ぬ 玉 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 ぬ と ぬ て ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 行 ぬ ぬ て ぬ ぬ の ぬ ぬ ぬ ぬ
 標 ぬ の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 手 ぬ の ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 玉 川 や ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 手 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 斜 手 ぬ ぬ ぬ

昌
 十
 七
 八

葉のむや一村く〜
出 栄 状 強梁

争つ〜
掛 灯 籠 吹角

金麻のや〜
小竹

凡のむいむ〜
盲人 於了

原より〜
浮 舟 芳菊

何〜
呉 舟

讃岐之部

一〜
車 蛙 汀 造

郡家

持人の家〜
彼 舟 詳 悠

舟の〜
桃 船

〜
湖 碎

丸 急

〜
銀 翅

〜
知 香

〜
主 本

〜

るるの公けれやまの記記 九条 其批

周防之部

業をくけの 蛇のふをく 深きり ぬト
河骨れいしあひ 清一 朝 露 雨夕
噴の雫やふ 籠をきくふあふ 雲丘
一時の深金のの かりとやニき 深 可夕
ゆり起を 垣れ 籠や ああし 文之
桂ぬむの 不きとや 小月 筥 随柳

大つふとちてふ 傳ひや 燦はひ 千之

豊前之部

都ふふと 衆のちり 胎王 未 雉
こころよふく ぬれたり 柳 久 た 素
手らふ 己よ ぬくや 物事 寺 宇 水
伸の 火よ ぬきく ぬれて 啼き 鳥
何 驚よて 八きめ 守 保 や けり 鳥 是 石
さしき 柳よ 尾て 夏 月 虹 松

まよふるれりてしるや御後川 中津 江路

石らゝ鹿ももりぬや 夕 涼 和氷

下司の勢金の集落やまこれ雪 後氷

なまよもぬをあり 菊の家 巴水

福業のほろひ捨てられ 鶴舟は 泉加

懐よまをふもあれて ぬの梅 池文

飯ともは母の時置や 雛れ 抄 た字

何とよしてゐの眼もや 木下 雪 千川

り林や傍のまよひじらの庭 言九

吹流とこころてきや 鶯の花 魯翁

果らの枝のまよひや 花 牡丹 言九

まよひやまよひよこあられ 傍の上 東推

豊後之部

り林やほれてもあつて 松の音 日田 西風

梅の音や花もほ 俣 言九 吾氣

まよひやまよひ小るれ 龍や龍の抄 五立

二つと一草と中一の月の人

名人の守りておぼろのまのまの

月快のれや栞く村まのれ 立雲

津之のありよ夜のまくまの 栞園

新啼や美と世あ一る一と 塚 蛙考

まゝのれ信しうのまのまのまの 柴群

まのまのまのまのまのまのまの 銀河

まのまのまのまのまのまのまの 里山

まのまのまのまのまのまのまの 西園

まのまのまのまのまのまのまの 松島

筑後之部

まの起ていけおぼろの栞の 大石 素丸

まのまのまの燃てまのまのまのまの 吉野 塔里

まのまのまのまのまのまのまの 金平 里塚

筑前之部

まのまのまのまのまのまのまの 其倉 其南

越後之部

新写

名目やいぬの 鐘も出たあはれ 竹風
 まゝも 按摩さうらへて 音も麻の 帆柱
 旅のねれやまゝ けくや又月も 美園
 海ぬのまゝも ねえか ちり ねえよ 船流
 岩屋やまゝも ちりちり ねえのね 山市
 まゝも ねえのねとまゝも ねえのね 千株

竹甲斐や 中島の年よ ちりよ 雲枝
 ねえのねの ねえのね ねえのね 巴例
 鐘もねえのねとまゝも ねえのね 田巻
 まゝも ねえのねとまゝも ねえのね 園一
 ねえのねとまゝも ねえのねとまゝも ねえのね 架洞
 ねえのねとまゝも ねえのねとまゝも ねえのね 自由
 ねえのねとまゝも ねえのねとまゝも ねえのね 雲庭
 ねえのねとまゝも ねえのねとまゝも ねえのね 菅子

ね〜のゆるやねのきりね
 きや〜月と〜わ〜 石〜
 十とあや〜こ〜り〜る〜と〜の〜
 又月あ〜の〜あ〜あ〜 雲〜〜よ〜
 ら〜や〜〜は〜〜は〜 根根のむ 九月
 干物よ〜日と〜と〜〜 可〜る〜 味以
 物き〜〜な 枝の目れ屋や昔のむ 葉草
 一〜〜の〜無〜不〜の〜 氷〜〜 其杖

ね〜のゆるやねのきりね 島田
 きや〜月と〜わ〜 仕 美 貝錦
 十とあや〜こ〜り〜る〜と〜の〜 松二
 又月あ〜の〜あ〜あ〜 雲〜〜よ〜 之中
 ら〜や〜〜は〜〜は〜 根根のむ 文先
 干物よ〜日と〜と〜〜 可〜る〜 望測
 物き〜〜な 枝の目れ屋や昔のむ 梅亭
 一〜〜の〜無〜不〜の〜 氷〜〜 格月

村上建中

19

中の指もねのねか 一 守 る 吉田 一 風

菊の甲の指もねのねか 一 後の月 志保

表のしねのねか 一 職 上原連中 一 個也

菊の先よあつく 表の信の上の信 豊林

早よ羽もそそく 一 一 ねのね ねね

き羽子や ねもあよて 堀の 月 文政

よよのねや 花もあよて ねのね 文志

借仏や 甲の指の ねのね 梅中

中場のみや ねのね 海 其深

虫や ねのね 雨夕

ねのね いよか

頭中 急白

海風 舎久

そと 嗽石

夕 立流

か 既青

11

11

雪のほれも捨しめぬま
 さとわて梅も結ぶの十おん
 春の雨もさるや夕月雨
 後さきれ娘よるさきしれい
 お前とさるもさるさるのま
 さる娘のまのさるさるのま
 さるのまのさるさるのま
 はんばい子代やかきかきさるのま
 一方

里松
栗林連中

さるまきさるしむきさる娘を
 娘もさるさるさるさるのま
 竹とさるさるさるのま
 藤もおとさるさるさるのま
 川林のさるさるさるのま
 さるさるさるさるのま
 藤もさるさるさるさるのま
 二のあーとさるさるさるのま

僧
梅思
為竹
藤紫
さる
治川
可吟
治田
はむさ
一方

梅思

梅思

いにしへ

るさやまふゆーりてちるちる 傍 山意

管をへしりかけり 中世 赤い雲

梅うきやうもちる 吉田 二考

御衣持き 吉田 和好

頂居く 思案

梅のよ似を 志柳

七子や虫も 志柳

後の子も 志柳

ま梅やむしと 手柳

福つ 柳兵

みま た菊

う川 依石

川林や 五衣

る 和風

敷 小秋

畑 似松

いにしへ

いにしへ

短おと屏ぬまきくく 泉 似角
 くらくふらのよめや 校調
 雨の日はあきのせもま 石松 寸松
 灯籠は消えぬ月おや 梅月
 ふゆもゆきもむ小田も 倍 寸松
 よふあふ屋舎も月や村 倍 寸松
 むつしおきよきとて 柳 柳
 松山の藝形とあふふ 柳 柳

ちりちりや 柳もきくきく 柳 柳
 ちりちりやの片如やよて 柳 柳
 指合の構とれ月や天れ川 柳 柳
 柳ぐれ里も肥てやよの月 柳 柳
 柳のちりちりやよて 柳 柳
 起てあふあふの 柳 柳
 柳の尾も留よあて 柳 柳

子板

待守ぬ里いづるは彼君外 白雉
 吹き免てれば浦き川 落葉以 花北
 秋きとまき候し川む 名茶うま 以壺
 縁新敷志よりぬ 山や物時 南南
 海山の名も相違てはく 鯛 ちこ
 そくちや木根もあふくは 李芳
 ねんあふまきと蝶し 牡丹 白也
 子きいあふちりきり 霞のむ 自矣

おろりやおろし軒と 寝ころ 去る

お中し詩

うぬやまきとあねと 一も 際 文詞
 苗代の水や 夏は 海こり 仙海
 石細のひふよ 夏は 一葉のま 仙凡
 十六あの名よ 餅は ちり 葉れ白い 暮香
 雛の向や 餅と 酒とよ 二不 常 星風
 川むうい 繁てあふて 柳 うま 玉霄

昭々

本

老の齒、海風のささるるささるる
 西行、さきの名をきくはうら
 柳のまともれくさやみやわか
 虫千の隣、てれや 紅のむ
 石の夕日、りやみ 榎うた
 松一本、時るとよせよ 石佛
 えふよよとひらきさる 蕨うた
 柳のやちと、破岩のお教誨 白世

柳のまともれくさやみやわか
 虫千の隣、てれや 紅のむ
 石の夕日、りやみ 榎うた
 松一本、時るとよせよ 石佛
 えふよよとひらきさる 蕨うた
 柳のやちと、破岩のお教誨 白世
 名月の笛や、さるる 月の夜 水邊
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中
 柳のまともれくさやみやわか 柳のま 日不達中
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中
 名月の笛や、さるる 月の夜 水邊
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中
 柳のまともれくさやみやわか 柳のま 日不達中
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中
 名月の笛や、さるる 月の夜 水邊
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中
 柳のまともれくさやみやわか 柳のま 日不達中
 糸引、てまゝくさるる 柳のま 日不達中

柳のま

日不達中

ちりやまればせむのちむふんと 其後
 極つむ木のつとむらよふる子 柗仙
 香露のちの露 元せむふと 里香
 草花のむきよふらむや木の露 え花
 めくくろよ思もむれむいちの時 日柗
 ろくくろくさむむて火花外 梨白
 夕虹やをれく思て百目紅 許夕
 香花場のむもむらわてはくく 石松

まよ竹よ面白き 暮れむ 紅校
 林ゆや娘慕もむのふ常折 田石

柗崎

ろ木の眸ととむらむ 柳 うあ 菱軒
 山里と入柗よ 柗のむ 柗言
 極る香や又管 有吹くぬまの鼻 去み鮮
 ろ時の思もちあふく 淫繁係 欠凡
 ろ心眸と ちやむ終麻の 部云 榮之

柗崎
 三

瀬松と藤と山 咲ふえの川 松之
結縁の糸柳あり 宗帳坊 睡之
餅とさくら戸のくちあり 菊と花 竹守
柏子の柏子ふかぬれ 石ふうふ 僧 祝の
小敷や松の葉くくぬれ 石屋 曙来
尾さへ石と 鉦よ 念仏うた 白司
二階くくしてある 市の 時ふけ 東可
世のふれささ藤の 祝のや 涅槃縁 芳川

日の移れ佐原や江の 夕 涼 夕塗
才かきよ 藤子ふれや 岩手 三をゆめ ト友
七夕や柏の廣 高島 葉とや 高島 ね 祝之
湯あがり 高島 とは 高島 色と 盤のあがる 高島 水 きた
白塗や 細代 高島 まあて 高島 ね 高島 の月 榎林
こるさ 高島 とら 高島 じ 高島 け 高島 あり 高島 志比 高島 次 高島 梅 高島 園一
くらりて 高島 しの 高島 や 高島 くら 高島 くら 高島 女 高島 ち 高島 ち 高島 眠例

今町

四三

三三

白松やせれけさる きた 振子 たの
 谷船や町るのあとれ 飯 煙 紫木
 蜻蛉の笠の目利や市れ 中 白鹿
 山道の細いさけさ甲 友のむ 似水
 常衣のほろりと襟のあふ探水 花弄
 籠のふれ子平さやふかふる 女 三川
 男をい何のきささ ち宿 引 女 三川
 竹馬ふむかもちり 葉 細水 蜻蛉

きのあふさ花さ川よる 小島 玉色
 うねの松やこけて 郭 云 解流
 舟の松の新やおろる 月 照流
 萩と松と裾よ 川 橋のたおる 陰夜

東魚川

月言に明きささ 梅のむ 九鯉
 松のあふ柳ささふ 泥南

ちいさなやまの山 帆ヶ舟 治圭
 行舟よるる 影さや 夕ささこ 冠五
 弱きあややいなる 浪の音 春東
 秋のあけをいよのめ 鼓うふ 坡竹
 牛飼の娘よあしや さいわい 邑芝
 筆張のふれはとささや ちかむ 碩文
 日と月とあはれさし 竹の書 以舟
 泉さよ月や放し 夕涼 宜由

改のあやや新しうなる 清 牧布
 筆勢と火燈し 信れさるまふ 味甲
 鉄炮よあはれさすの 康れ抄 経 野末
 千鶴のあともさし あむ屋をい 如庸
 杜若もさし さいふをぬるまふ 一水
 雪や新と染おさ 山の色 加席
 鶴さく起ゆいさし ちちる月 卜程
 み梅のさささ 海のかえ世 里豊

奥のころゝまふはけけけ 新々
 ちりちりちりちりちりちり 橋
 入おとちりちりちりちり 橋
 ねれねれちりちりちりちり 橋
 ねねのあやちりちりちりちり 橋
 念仏のあやちりちりちりちり 橋
 ね言の相もよ 橋の まま立
 ね言の相もよ 橋の まま立
 ね言の相もよ 橋の まま立

藤五郎のまふはけけけ 新々
 垣越えのまふはけけけ 新々
 行林やねのまふはけけけ 新々
 ちのまふはけけけ 新々
 名月やねのまふはけけけ 新々
 ねれやねのまふはけけけ 新々
 ちりちりのまふはけけけ 新々
 け中よねのまふはけけけ 新々

藤五郎

七五

夜と暮と深て日よ下るる花の 菊二

中ノ巻

下流のまづかきさの石の流
さよと帯よぬれまじり
やまの木のまぢくく柳のふ
積りよの月ありきさうさよのさ
下流のまぢくさるるや野の
にほりやる味のぬれさるる楊
梅林

おちりや竹の雀の一思 安東 国志
入おの裾よてうさよとや
日のゆれ等よぬれや柳のむ
藤のやららとさよよ木葉の
ゆらゆらと夜よさるるさるる
ほろのさよとさよとさよと
生咲いさるるさるるさるる
まき

巻二

廿六

晴る川や 疎く葉ふ子の物あり 起石
 一いつつ 深き御衣と 花やふふ 巴水
 くる人のと 越え喜ぶし 蓮の花 吳橋
 らのむや 障のぬい づも 新巻
 ちかちか ちかちか け 初る
 都よ ちかちか づも 柳の 酔 右考
 夜ふか ちかちか づも 新巻 白
 ちかちか ちかちか づも 柳の 酔 錦里

ねる川や 疎く葉ふ子の物あり 東紗
 一いつつ 深き御衣と 花やふふ 九鬼
 くる人のと 越え喜ぶし 蓮の花 九鬼
 らのむや 障のぬい づも 九鬼
 ちかちか ちかちか け 初る
 都よ ちかちか づも 柳の 酔 右考
 夜ふか ちかちか づも 新巻 白
 ちかちか ちかちか づも 柳の 酔 錦里

新巻田

尚平
 在川

男

女

あつたて待しゝるや猫の舌 存仙
 経しし月の歌々 菊の香
 しのさかひるる日や 萩の香
 詩好のま音かゝる 松の香
 春の朝のしゝるるを 萩の香
 さゝ菊のま音よまゝ 萩の香
 姑のま音のしゝる 萩の香
 煙のま音よまゝ 萩の香

川秋のま音や 桂味香の香 二及
 さゝあゝれぬるを 萩の香
 松茸のま音よまゝ 萩の香
 むしゝるるを 萩の香
 くしゝるるを 萩の香
 白粉のま音よまゝ 萩の香
 萩のま音よまゝ 萩の香
 萩のま音よまゝ 萩の香

萩の香
 萩の香

水子ふんふん書きふんぬ 省のむ 実
 落の芽やまきくまの 歎れはえ 素口
 松根ふんふんあつふん 白髪ふん 中梅
 名月ふんふんあつふん 中梅 香舟
 二子ふんふんあつふん 後の日 洗柳
 一をふんふんあつふん 菊の 遠れふん 里碑

疑けやふんふんあつふん 叫つふん 立書
 浮きふんふんあつふん 中梅 義石
 埴餅ふんふんあつふん 梅ふん 松暈
 町のまにふんふんあつふん 平松 桐里
 遠従ふんふんあつふん 中梅 洗涼
 あつふんふんあつふん 中梅 里亭
 二子のちふんふんあつふん 蓮の糸 美流
 叶はやふんふんあつふん 中梅 菟白

陽春

秋

三十三

三十三

掛きくち女子くちやと月 一 巴陵
 ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 竹市
 冬風せまへるくちと 留 中 魚仙
 岸へさかぬへる 鼓のほろもほ 汗虹

會津 津川

ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 知水
 冬風の夜更なちるくちと 留 中 景景
 岸へさかぬへる 鼓のほろもほ 知水

ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 文之
 冬風の夜更なちるくちと 留 中 運之

土羽 土橋園

ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 風景
 冬風の夜更なちるくちと 留 中 李夕
 岸へさかぬへる 鼓のほろもほ 夜松
 ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 安楽
 ちるあはるちるよ 踏のほろもほ 曾子

四十一

四十一

よしあし角よはりし一島の書 白之
 さらし川向ふちりし子 兆而
 人あくわらふも素肌のきくも 一紙
 安海の若れ戸をのぞいて涼風 千阿
 紫陽花やきくも名のく川 瓶塚 里枝
 夕きや男こころれ あと日紅 和角
 法もよ流れてるをり 柳うま 野水
 茸狩や花よるふも 山に揺 素紅

花の碎 ちかきもきりやまのる 宇坂
 不嗔のあこまのうらり 葵のい 千峯
 ハきふもきりくも 守るうま 巴丁
 研かしたるやちりや 梅のい 佳次
 村ののちりかぬしや 平の字 徳丸
 ちのれは陰よこちも 榎うま 凡芝
 苗代やまるとまの心たしふ 親 隣市
 ふもよるとまの心たしふ 親 杜考

花と笑とさししゆきゆき一松のまに 栞二
 名月よ舞のまにゆきゆき一松のまに 素舟
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 一松
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 文市
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 可恕
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 巴水
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 荷松
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 可朝

春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 三徳音
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 指三
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 宇兆
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 東明
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 杜由
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 野矢
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 策遊
 春のやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき 壺英

春のやゆきゆき

三徳音

さかたもろの後のやまをたか
只白
従職しとるこわしるおき
校筆
引ねえ縁て陳皮の故やう
其夕
まゝぬえのまてききり
里柳
おのたに鎌とるやむの
昔錐
おのきりおもしもこと
や九月
十知
うらまや縁のききる
なれむ
誦士連中
舟英
おのきりおもしもこと
月おの
郭
松亭

車戸よアヤアヤ
重行
おのきりおもしもこと
秋離
まゝぬえのまてききり
雨夕
おのきりおもしもこと
柳里
おのきりおもしもこと
文松
おのきりおもしもこと
石
竹之
おのきりおもしもこと
蘭水
おのきりおもしもこと
雨
片石

品五

品三

町多や人呼多とありとらうと 志保

格しう保しうある 木の小ありふ 贈詩

蜘蛛の十日ふらぬ 町をふら 呂州

あつちの十方ふらぬるきふらぬ 石涼

ふるふ保あふれふ 紅くや木の花 園里

首ふらふふらふのらふ 雄の柳 素奥

ふらふとありふらぬのねれふ 尊治

ふらぬの意歌ふらぬ 落の塔 陌楊

郭ふらふ序くともありぬ 意石

梅咲やなほふ帯れ入ふ 豊泉

雪の名を洗ふきふらぬて柳ふ 梅葉

昔葉とらふとてや 蝶も 長らふ 永秋

入たのふらぬて世新し 呉春

塔鈴や 寂母も 帯れ 暮らふ 方上

松ゆふ 柳と ぼけてや 蝉のあり 子孫

鈴鳴や 世のなほふらぬの 鐘のあり 雲中

1002

1002

まふか入とてはるまゝしる
 山に
 民亭
 素石
 芳水
 阿侯
 真林
 早見
 塚

山竹庭
 谷水
 赤子
 酒田

鹿砌
 赤川
 野水
 和竹

名
 名

とのうねれえさけりしや旗の抄 南林
 白鷺に紅の虫店や比く様 里泉
 十月やあるさしつゝ雨北よ 南李
 燈の影もあざれや六月雨 森水
 那都の暮るさしやまの 南江
 柁くつものほれさくく 雨星
 象の目れ泪をわき 涅槃像 金英
 昔むしり名もむしりや 享園

めきくそて日産の歌く牡丹江 梅竟
 藻のむや波れ庵る 福あゝ 於藍
 女さるよきそてあはれる 流石 些英
 初軒とあらくや鼻も糸柳 霸岸
 石猪口と類う投る 己百
 海へさあふよとあはれるや 斗南

佐渡相川

入る日と初きそて 糸糸 蒔 蒔
 蒔 蒔 蒔

意あしむ早し折ふや河内の川 松雨
 有仙のまよふと白く書き 女 銀桂
 書きたるまじく 凡れ 為るうま 一七
 振神の振るれ嫁こも汐干の 吳竹
 為るや難しう探ありの為るより 支川
 福書や為るれの垣よ 嘆てちれ 文竿
 去る父入しゆと 為るこも 柳外 舟井
 山吹のぬ入し 蝶のひさく 徳只

家おしりえひ 蛭牛 東海
 桑に世話のまぬるれも海世の 方石
 物おしりゆき けい 理石
 おくわよるま けい 湖林
 松をて鶴の桑原 一のま 百和
 踊場やたしき 藤 藤璞
 常にかきこ 岩の坊 和角
 子園子や 彼るらうれひよ 地松

四六二

四六二

谷のたれはささげしつゝささげしつゝ 東川
 入おにるとはささげしつゝささげしつゝ 素仙
 うつくぬの雲とちかきささげしつゝ 柳江
 ぼくささげしつゝささげしつゝ 以水
 如きりやささげしつゝささげしつゝ 和菊
 月帯と門しつゝささげしつゝ 甫亦
 黄きさのあしつゝささげしつゝ 露十
 血取の短うささげしつゝささげしつゝ 怡方

旅人の笠に篇うささげしつゝささげしつゝ 素石
 獨流の角もささげしつゝささげしつゝ 甫秋
 出羽 下衣
 舟ささげしつゝささげしつゝ 英良
 葉のむやうささげしつゝささげしつゝ 捨九
 吹きささげしつゝささげしつゝ 山志
 葉のむやうささげしつゝささげしつゝ 南石
 菰茹りれ 新しあぬあふ 蛙 砧 吾

墓守も山陰く——紙の初 右流

お書略 越中城駕連中

梅の字、以雅にまねの記念に 十治

柳てくる ちよまきまの 柳に 元子

石塔の坊常 昔もや 夕きく雀 路芳

まののまて 柳七一し ちよ向に 突甫

遊芸十日旬越後にま連中

脈も七人きて 柳れ 朝 風羽

ちよまねれうい、ほちくう 梅のむ 素伯

予の係もまよふかや 百もも 如月

音かよもくく 白いあり 梅のむ 芦花

ちよのねくまぬ ちよひやむぬのむ 有久

ちよの螺の名とよ向もや 柳れ花 是之

ちよの價より 梅のうふとくを 指月

柳て又 梅も 涅槃に 咲日外 愚友

柳おのう株えんも—— 窓の梅 東星

こころはかきもこもて 宿ふくまの梅 松人
 早蕨や 卯日の 冥供の ころも 辰柳
 梅より 名れ ころも 仲も 涅槃の 山次
 白梅や ころも 梅 ころも 梅の 梅隣
 竹の 思や ころも 梅の 思 花弁

遊芸十句 佐後相川連中

秋廻と ころも 秋の ころも ころも 花竹
 ころも 思の ころも ころも ころも 花竹

ころも ころも 梅の 掃子の 柳 ころも 三冬
 ころも ころも ころも ころも ころも 花竹
 天人の 青糸よ ころも ころも ころも 以費
 ころも ころも ころも ころも ころも 何言
 ころも ころも ころも ころも ころも 玉紙
 ころも ころも ころも ころも ころも 星紙
 ころも ころも ころも ころも ころも 流星

返善三句

休後大連中

さくさく安寝の目新や七回 露白

梅よさぬさるゝさるゝの七月廿二日

蓮極一ふのいふ一ふの能 和乙

梅よさぬいふさるゝの 豊後国 仰りな 二日

さるゝとほふさるゝの この大伴 蓮の糸 文角

七人の新ふさるゝ 合 城 うふ 丸丸

踊く朝も向ふや イセ妻名 月 体山 月

新立師次貝塔序

秋田

古柳

我友方山舎の人也水亨保十七年のまよ上京此
折う義仲さるに傍て蕉翁の序あり一とあり
さるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり
とありさるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり
さるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり
阿難の憲章よりとありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり
さるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり
空所より文體文採り姿情を伸縮し十論
入辯の義宮とありさるゝとありさるゝとありさるゝとあり

大任... 正凡と一統... 蓮二老... 二月七日と遠... 勸...

同上に鑿仰堅高の... 勸...

三基圖 略差

當日役割 次才

杖按

居碑

掃除

圓阿

杖按... 居碑... 掃除... 圓阿... 由瓢... 可魚... 石瓢... 露白... 可葉... 昨株... 固常... 根牛

肩の口

持灯

温厚のまろやかくやまの月
まらやまきりかたけの地

文幣
柳枝

供花

はらみももゆるの松引のよ白の
はらのまをわらうやまをれま

世火
和雲

羹茶

一袋の茶よまろしよまのま
村まのの地に居よま湯の

歌女
藍

羹湯

まけのゆらやま湯の物まの
香あまに極よまやま香の香

柳山
木柳

焼香

一袋の香よまろしよまのま
まのまろしよまのま

木耳
柳乙

回向

まの味よく静れよ世の地
まの味よく静れよ世の地

位良
世柳

用眼

新おのふ柳化よま 石佛

世柳

